

民 事 訴 訟 之 部

一三

一金何圓也

明治年月日貸付元金殘額 辨濟期明治年
月日

一金何圓也

明治年月日ヨリ至何年月日ニ至ル何ヶ月
間元金一圓ニ付キ何々ノ利子(又ハ年月
日ヨリ殘額ニ對スル何割ノ利子)

外ニ何年月日ヨリ本件執行ニ至ル迄ノ利
子ヲ請求ス

督促手續費用

一金何圓也

内

支拂命令申請印紙

民 事 訴 訟 之 部

一三

金五拾錢

右申請出頭日當

金何圓也

右送達費用

金

右申請ニ付旅費申請人住所ヨリ何區

裁判所迄往復何里分

金 錢

書記認料

右債權者ハ明治何年月日右債務者ニ對シ前記ノ約定ヲ以
テ金何百圓貸與シタル處債務者ハ元金ハ金何圓利子ニ付
テハ何圓ヲ辨濟シタルモ元金殘額何圓及ヒ元金全額ニ對
スル明治年月日ヨリ何月日マテ並ニ殘額何圓ニ對スル明
治何年月日ヨリ何月日ニ至ル年割ノ利子ヲ期日ニ支拂ハ
ス依テ債務者ニ對シ前記請求金額並ニ督促手續費用ヲ併

民 事 訴 訟 之 部

セテ支拂命令發セラレ度民事訴訟法第三百八十四條ニ依
リ此段申請候也

右

年 月 日

某印

何區裁判所判事 某殿

(賣掛代金又ハ賣渡代金請求支拂命令申請ノ例)其三

支拂命令申請書

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

某

請求金額

一金何圓也

明治何年月日何々賣掛代金(又ハ何賣渡

代金又ハ明治年月日ヨロ何月日ニ至ル間

ニ數度何々賣渡代金)

一金何圓也

右賣掛代不支拂ニ對スル損害賠償金但シ

年何分ノ割

督促手續費用

一金何圓也

内

金、、、、

支拂命令申請印紙

民 事 訴 訟 之 部

部之訟訴事民

金、、、、 右送達費用
 金、、、、 右申請ニ付キ出頭日當
 金、、、、 右申請旅費債權者住所ヨリ何區裁
 判所迄往復何里分
 書記認料

右債權者ハ明治何年月日右債務者ニ對シ何々何程ヲ全何
 圓ニテ賣渡シタル處（又債務者ニ對シ明治何年月日ニ
 至ル迄ノ間ニ於テ數度ニ何々何程ヲ）月末拂ノ約ニテ賣
 渡シタル處債務者ハ約定期日經過スルモ其履行ヲ爲サス
 依テ督促手續費用ヲ併セテ債務者ニ對シ支拂命令發セラ
 レ度此段申請候也

部之訟訴事民

年 月 日 債權者 其印
 何區裁判所判事 某殿

右ノ書式ニ依リ支拂命令ヲ區裁判所へ申請スルトキハ執達吏へ費用金
 豫約ヲナシ然ル上裁判所へ提出スルハ裁判所ハ債權者へ發スル命令書
 へ送達ヨリ十四日間ニ金額ヲ辨濟スルカハ異議ノ申立ヲ爲スベキ旨
 ノ命令書ヲ發ス債務者ハ左記書式ニヨリ區裁判所へ假執行宣言ノ申立ヲ爲
 サルハ債權者ハ左記書式ニヨリ區裁判所へ假執行宣言ノ申立ヲ爲
 シ宣言書下付アリシトキハ執達吏ニ委任シ債務者ノ財産ヲ差押フベシ
 差押物品ハ期日ヲ定メ執達吏ニ賣却スルモ其賣得金ヲ以テ債權者ハ請求
 金ヲ取立尙ホ不足スルトキハ又執行ヲ委任シ得
 支拂命令書ハ十四日間其他ノ請求ハ三日間迄短縮スルコトヲ得
 リ生メテ申請スルハ二十四時間合裁所ノ所在地ニ住居有セサル申請者ハ裁
 支拂命令書所在地へ送達スルノ協合裁所ノ所在地ニ住居有セサル申請者ハ裁
 判所ノ所在地へ送達スルノ協合裁所ノ所在地ニ住居有セサル申請者ハ裁
 其ノ假在所へ送達スルノ協合裁所ノ所在地ニ住居有セサル申請者ハ裁
 キ茲ニ書式及ビ法律ノ條文ヲ掲ク

注 意

第四百十三條

二八

受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所
 ヲモ有セサル原告若クハ被告ハ其所在地ニ仮住所ヲ
 選定シテ之ヲ届出ツ可シ（參考民法廿四條或行爲ニ
 付キ仮住所ヲ選定シタルトキハ其行爲ニ關シテハ之
 ヲ住所ト看做ス）
 仮住所選定ノ届出ハ遅クトモ最近ノ口頭辨論ニ於テ
 之ヲ爲シ又其前ニ書面ヲ差出ストキハ其書面ヲ以テ
 之ヲ爲ス可シ
 前項ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ裁判所書記又ハ其委任
 ヲ受ケタル吏員交付ス可キ書類ヲ原告若クハ被告ノ
 名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得此ノ送達

ハ其書類ノ原告若クハ被告ニ到達スルト否トヲ問ハ
 ズ又何時ニ到達スルトヲ問ハズ郵便ニ付シタル時ヲ
 以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○印紙ヲ
 要セス（假住所届書式ノ例）

假住所届

縣郡市町村字番地族稱職業

何 某

自分ヨリ何某ニ係ル又ハ何某ヨリ自分ニ係ル何々事件ニ
 付キ前記方ヲ假住所ト相定候間該件ニ係ル書類送達ハ前
 記假住所戸主ハ戸主不在ノ節ハ全家族ノ者ニ御送達有之

民 事 訴 訟 之 部

度此段御届申上候也

年 月 日

右

假住所戸主

某印 某印

何區裁判所書記課御中

第三百九十三條

仕拂命令ハ其命令中ニ掲ケタル期間ノ經過後債權者ノ申請ニ因リ之ヲ假ニ執行シ得ベキコトヲ宣言ス但假執行ノ宣言前債務者異議ヲ申立テサルトキニ限ル
右假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以

民 事 訴 訟 之 部

テ之ヲ爲ヌ其執行命令ニハ債務者ニ於テ計算スル手續ノ費用ヲ掲クベシ
債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲ヌコトヲ得

(假執行宣言申立申請書ノ例)

假執行宣言申立申請

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

某

部之訟訴事民

債權者某ヨリ債務者某ニ對シ申請シタル御廳明治何年何
第號仕拂命令ハ全年何月日送達相成候處債務者ハ正當ノ
送達ヲ受ケナカラ命令ノ期間内ニ支拂ヲ爲サス且又異議
ノ申立ヲモ爲ササルニ付キ別紙計算書ノ費用金モ共ニ右
債務者ニ對シ假執行ノ宣言ヲ附シタル執行命令ヲ發セラ
レ度此段申立候也

年 月 日 債權者

何區裁判所判事 某殿

某印

注 右ノ申立書へ印紙貼用シ裁判所へ提出前執達吏へ費用金豫納シ命令書
下附アリシハ前執達ノ通り執達吏へ委任スベシ此ノ命令書へハ支拂
命令申請ノ請求金額利子及ビ宣言申立費用モ記載アリ計算書ノ書式ヲ

部之訟訴事民

示ス此計算書ハ別紙へ認ムヘシ
前逃ノ如ク此申立ハ債務者異議申立テザル限

計算書

一金何圓也 假執行宣言申立費用

内

- 金、、、 申請印紙
- 金、、、 送達費用
- 金、、、 右出頭日當
- 金、、、 書類認料
- 何、、、

右ノ通リニ候也

右

部之訟訴事民

年 月 日

某印

注意

支拂命令申請スルトキハ通常支拂期間ヲ十四日間命令ニ付スモノナルニ付キ債務者命令ニ異議アリ最後ノ十四日當日ニ異議申立ツルトキハ事件ノ延引債權者ノ迷惑ナルコトアリ其場合ハ申請書ニヨリ異議申立期間短縮スベシ左ニ條文及ビ書式ヲ示ス

第三百八十六條

テ之ヲ發ス

支拂命令ハ豫メ債務者ヲ審訊セスシ

支拂命令ニハ第三百八十四條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル申請ノ要件ヲ記載シ且即時ノ強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ請求ヲ満足セシメ及ヒ其手續ノ費用ニ付定ムル數額ヲ

部之訟訴事民

債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ノ債務者ニ對スル命令ヲ記載スヘシ前項ノ期間ハ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得

ハ支拂命令ニ對スル異議申立期間短縮申立書ノ例)

異議申立期間短縮ノ申立

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者 某

右債權者ヨリ債務者某ニ對シ貸金請求（又ハ何々手形金請求）ニ付キ本日支拂命令申請ナシタル處其異議申立期間ヲ何日間ニ短縮相成度民事訴訟法第三百八十六條第二項ニ依リ此段申立候也

右

年 月 日 債權者

某印

何區裁判所判事 某殿

（此書類モ提出ニ付テハ前述ノ通り）

意注
 支拂命令發セラレタル債務者異議アルトキハ命令ノ期間内ニ其裁判所ヘ異議申立書ヲ差出スヘシ申立書面ヘハ民事印紙法ニヨリ印紙貼用シ執達吏ヘ豫納シ然ル上差出スヘシ申立人ガ裁判所ノ所在地ヘ住居ヲ有

第三百八十八條 債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

セサルトキハ前記書式ノ假住所届ヲ申立書ヲ添ヘ裁判所ヘ差立スヘシ左ニ條文及ビ書式ヲ示ス

（支拂命令ニ對スル異議申立書ノ例）

支拂命令ニ對スル異議申立

縣郡市町村字番地族稱職業

申立人

某

一債權者某ノ申請ニヨリ發セラレタル御廳明治何年(何)第何號支拂命令ハ去ル明治年月日送達相成候處該支拂命令

ハ應スハキ義務無之ニ付キ茲ニ異議申立候也

右申立人

年 月 日

何區裁判所判事 某殿

某印

(右申立書ヲ以テ異議申立ツルモノナリ)

注

債務者力右ノ通り異議申立テタルトキハ裁判所ハ期日ヲ付シタル呼出
狀ヲ發ス此呼出狀ニテ出頭シ異議ノ爲メ訴訟トナリタルモノナルヲ以
テ出頭ノ日ハ原告被告口頭論ヲナスモノナリ
區裁判所ハ訴訟金額二百圓迄ノ取扱ヨリ爲サ、ル規定ナル力故ニ支拂
命令金額數百圓ヲ區裁判所ヘ申請ナシ異議アリタルトキハ申請者ヨリ
地方裁判所ヘ訴狀ヲ差出スモ、トス二百圓マテハ區裁判所ニテ訴訟ス
ヘシ地方裁判所ヘ異議ノ爲訴狀ヲ差出ス貼用紙ハ區裁判所ヨリ支拂命
令ヘ貼用シタル印紙ノ分ヲ引去リ貼用スヘシ地方裁判所ヘ訴狀ヲ提出
スルニ當リ裁判所ノ所在地ニ住所ナキ者ハ前書式ノ假住所ヲ爲シ提出
クヘシ又前例ニ依リ豫納金ヲ爲ス可シ

意

裁判所ヨリ呼出アルモ其當日種々ノ事情アリテ出頭ニ差闕ヘアルトキ
ハ期日變更辨論ノ延期書ヲ差出ヘシ再度ノ延期變更申請ハ相手方例ヘ
ハ原告力延期ヲ爲ス場合被告ノ合意ヲ得ヘシ被告延期變更スル場合ハ
原告ニ合意ヲ求ムヘシ合意トハ書類ヘ連署スルヲ云フ連署アレハ再三
再四延期出來得ヘシ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス申請書ハ前例ノ通り豫納
スヘシ

第百六十九條

期日ノ變更辨論ノ延期辨論續行ノ期日

指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
但シ申立ニ因レル期日ノ變更ハ合意ノ場合ヲ除ク外
顯著ナル理由ノアルトキニ限り之ヲ許ス

第百七十一條

期日變更又ハ期間ノ短縮若クハ伸長ニ

付テノ申請ノ理由ハ之ヲ疎明ス可シ其申請ハ口頭ヲ
以テ之ヲ爲スコトヲ得

部之訟訴事民

申請ノ裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
同一期日ノ變更又ハ同一期間ノ再度ノ伸長ハ相手方
ノ承諾書ヲ提出セサルトキハ相手方ヲ審訊シタル後
ニ限り之ヲ許スコトヲ得又相手方カ異議ヲ述フルト
キハ顯著ナル差支ノ理由及ヒ其差支ヲ除去スルコト
ノ特別ナル困難ヲ生シタルコトヲ證スルトキニ限り
之ヲ許スコトヲ得訴訟代理人ノ差支ニ原因スル期日
ノ再度ノ變更又ハ期間ノ再度ノ伸長ハ相手方ノ承諾
アルニ非ラサレハ之ヲ許サス
期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ニ付テノ申請ヲ却下スル
裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

三〇

部之訟訴事民

(口頭辨論期日變更申請ノ例)

口頭辨論期日變更申請書

原告

被告

某

某

右當事者間ノ御應明治何年何第何號何々請求事件口頭辨
論期日ハ本月日ニ有之候處何々(例ハ別紙診斷書)ニ付キ
當日出頭仕難ク候間右期日ヲ來ル何月日午前第何時ト御
變更被成下度此段申請候也

右

年

月

日

原告又ハ被告

某印

三一

何區裁判所判事 某殿

注 意

初メノ目次ニアル印紙規定ニヨリ印紙貼用シ前例ノ通り豫納シ差出ス

注 意

再度ノ延期スルトキ相手方合意ヲ拒ミタルトキ又出頭ニモ差支エタルトキ欠席ヲナスモアリ欠席スレハ相手方獨リ出頭シテ口述シ裁判所ハ欠席判決ヲ云ヒ渡スモノトス欠席判決アリタル場合ハ一方ヨリ欠席判決止メノ送達申請ヲ裁判所ヘナスモノナリ正本送達アリタルトキハ四日ノ期間内ニ欠席判決ニ對スル故障ノ申立ヲ裁判所ヘナシルコトハ正當ノ辨論ヲ爲スコトヲ得再度ノ欠席ハ故障申立及ヒ控訴スルコト能ハス左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

第二百三十八條

各當事者ハ判決ノ送達アラシコトヲ

申立ツルコトヲ得其申立アリタルトキハ判決ノ正本ヲ送達スヘシ

右當事者間ノ御應明治何年(何)第何號何々事件欠席判決ハ去ル何日言渡相成候ニ付キ該欠席判決正本當事者双方へ御送達被成下度此段申請候也

右

(欠席判決正本送達申請書ノ例)

欠席判決正本送達申請

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

年 月 日

原告又ハ被告

某印

三四

何區裁判所判事 某殿

注意 右正本申請書へモ規定ノ印紙貼用差出ハ前例通

注意

右判決正本送達アリシ時ヨリ十四日間内ニ欠席判決ニ對スル故障申立書ヲ差出スヘシ然ラサレハ裁判確定シテ執行ヲ受クルモノトス左ニ參考トシテ欠席判決條文及ヒ故障申立ノ條文并ニ書式ヲ示ス

第二百四十六條

原告若クハ被告口頭辨論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ欠席判決ヲ爲ス

第二百四十七條

出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判所ハ欠席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ

第二百四十八條

出頭セサル一方カ被告ナルトキハ裁判所ハ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト看做シ原告ノ請求ヲ正當ト爲ストキハ欠席判決ヲ以テ被告ノ敗訴ヲ言渡シ又其請求ヲ正當ト爲サルトキハ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ

第二百五十六條

故障申立ハ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲ス

此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 故障ヲ申立テラレタル欠席判決ノ表示

第二 其判決ニ對スル故障ノ申立

三五

民 事 訴 訟 之 部

此書面ニハ本案ニ付テノ口頭辨論準備ノ爲ニ必要ナル事項アルトキモ亦之ヲ掲ク可シ

三六

△(欠席判決ニ對スル故障申立書ノ例)

△ 欠席判決ニ對スル故障申立

△ 縣郡市町村字番地族稱職業

△ 申立人又ハ原告 某

△ 縣郡市町村字番地族稱職業

△ 相手人又ハ被告 某

一 貸金請求事件

欠席判決ノ表示

民 事 訴 訟 之 部

明治年(何)第號

欠席判決正本

縣郡市町村字番地族稱職業

原告 某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告 某

右當事者間何々事件ニ付キ原告又ハ被告ハ明治年月日午前第何時口頭辨論ノ爲メ出頭ノ上左ノ請求ヲ主張シ

一中 署

何告ハ何告ニ金何百、及ヒ之レニ對スル明治年月日ヨリ本案判決執行濟ニ至ルマデノ間ニ生スル金、

三七

部之訟訴事民

ニ付何々ノ割利子ヲ支拂フ可シ

但シ訴訟費用ハ何告ノ負擔トス

明治 年 月 日

右欠席判決正本ハ明治年月日送達相成候處全部不服ニ付
キ其全部ニ對シ故障申立候也

右

年 月 日

何裁判所判事 某殿

某印

注

右ノ故障申立ハ前述ノ如ク正本送達ヨリ十四日間ノ内ニ必ス差出スヘ
キモノトス書類ヘハ前例ニ因リ印紙貼用豫納ノ上差出スヘシ裁判所ハ
此書面ニヨリ期日ヲ定メテ相手方ヲ辯論ノ爲メ呼出スナリ此書類ヲ認
ムルニハ送達アリタル正本ノ通りノ文ヲ寫スモノナリ但シ此書類中△

部之訟訴事民

意

ノ印アル分ハ書式ノ通りヲ書シ△ノナキ文章ハ正本ヨリ寫スモノナリ
正本ニ事實トナル分ヲ書式ノ如ク中畧ト書シ其他ハ正本ニアル明治年
月日マテ寫スヘシ然ル上書式ノ如ク右欠席判決正本ハ……………
……………書式ノ通り

意注

口頭辨論期日ニ原告モ欠席シ被告モ欠席シタルトキハ其事件ハ休止ト
ナルナリ休止ニナリシ事件ノ辯論ヲナサントセハ左ノ書式ニヨリ申請
スベシ裁判所ハ期日指定申請ニヨリ双方ヲ呼出スナリ書類差出スニハ
前例ノ如ク爲スヘシ

(口頭辨論期日指定ノ申請書式ノ例)

口頭辨論期日指定申請書

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

民 事 訴 訟 之 部

四〇

右當事者間ノ御應明治年(何)第號何々事件ハ休止相成居リ
候處更ニ口頭辨論相開キ度候間來ル何月何日午前第何時
原(被)告ナル某御呼出シ相成度此段申請候也

右

年 月 日

某印

何裁判所判事 某殿

注 意
右ノ如ク手續ヲナシ辨論終結言渡シテアリタルトキハ判決正本ノ送達申
請ヲナスベシ判決正本送達ヨリ控訴スルマデノ期間ハ三十日間アリ
送達申請書ハ左ノ書式ニ因リ規定ノ印紙貼用印紙消印シ前例ノ通り
豫納シ差出スベシ此ノ條文ハ前記欠席判決正本送達ノ處ニアリ依テ
ス

民 事 訴 訟 之 部

(判決正本送達申請書ノ例)

判決正本送達申請書

原告

被告

某 某

右當事者間ノ御應明治年(何)第號何々事件ニ付キ去ル何日
言渡相成候該判決正本當事者双方へ御送達被下度此段申
請候也

右

某印

年 月 日

何裁判所判事 某殿

民事訴訟部

注

右判決正本送達ヨリ一ヶ月ヲ經過セハ裁判確定シタルモノニ付キ送達ノ証明書ヲ求ムル必要アリ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

四二

第四百九十九條

原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ証明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基ツキ之ヲ附與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ証明書ヲ附與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ附與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認

民事訴訟部

メタル證明書ヲ以テ足ル

(判決正本送達証明申請書ノ例)

原告

某

被告

某

右當事者間ノ御廳明治年何第何號何々事件ニ付キ言渡相成候判決正本何告人へ送達ノ年月日御証明被成下度此段申請候也

右

年 月 日

何告

某印

何裁判所書記課御中

(前例ニ基キ差出スベシ)

四三

注意

訴訟ノ手續キナセシトキ又ハ訴訟ノ起リシトキハ最初ヨリ費用ヲ委シ
ク手控ナシ置キ勝訴判決確定セシトキ訴訟費用ノ確定決定ナス様計算
ナシ置クベシ確定決定トハ相手方ヨリ取立ヘキ費用ノ確定ヲ裁判所ヘ
申請ナスモノナリ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

第七十二條

敗訴ノ原告若クハ被告ハ訴訟ノ費用ヲ負

擔シ殊ニ訴訟ニ因リ生シタル費用ツ相手方ニ辨濟ス
可シ但シ其費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利
伸張又ハ權利防禦ニ必要ナリト認ムルモノニ限ル
訴訟中ニ訴ヲ取下ク請求ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ請求
ヲ認諾スル原告若クハ被告ノ敗訴ノ原告若クハ被告
ニ同シ

第八十四條

辨濟ス可キ費用額ノ確定ハ申請ニヨリ訴

訟ノ第一審ニ繫屬シタル裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲
ス
申請ハ第七十二條第二項又ハ上訴取下ノ場合ヲ除ク
外執行シ得ヘキ裁判ニ依ルトキニ限り之ヲ爲スコト
ヲ得
申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
申請ニハ費用計算書相手方ニ附與ス可キ計算書ノ謄
本及ヒ各箇費用額ノ説明ニ必要ナル證書ヲ添附ス可
シ

部之訟訴事民

(訴訟費用額確定決定申請書式ノ例)

四六

訴訟費用額確定決定申請

縣郡市町村字番地族稱職業

原告 某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告 某

右當事者間ノ御廳明治年(何)第何號何々事件ハ判決確定致候ニ付キ別紙計算書ノ費用金確定決定被成下度計算書相添此段申請候也

右

年 月 日

某印

部之訟訴事民

何裁判所御中

右申請ヲナシ費用確定決定アリシトキハ相手方ヨリ取立ツルモノナリ取立ハ執達吏ニ委任シ得ルモノトス相手方ヘモ費用確定決定書送達スルモノナルヲ以テ執達吏ヘ費用ヲ納ムヘシ計算書ハ二通ヲ要ス書式左ニ示ス

計算書

- 一金、、、 明治年月日訴狀提出印紙代
- 一金、、、 右訴狀何枚認料
- 一金、、、 右提出ノ爲出頭日當
- 一金、、、 出頭旅費但何地ヨリ何裁判所迄往復何里分
- 一金、、、 右送達費用
- 一金、、、 何年月日辨論ノ爲メ出頭日當

四七

部之訟訴事民

一金、右何地ヨリ何裁判所迄往復旅費何里分
 一金、右判決正本送達申請印紙代
 一金、右送達費用
 一金、何々、

右ノ通りニ候也

右

年 月 日

何裁判所判事 某殿

某印

（右決定申請へモ規定ノ印紙貼用消印ヲ要ス）

部之訟訴事民

意注

前ニ説述シタル期間ヲ經テ判決確定シ判決正本送達済ミニナリシトキハ其ノ判決正本へ執行文附記ノ申請ヲナスヘシ執行文附記トハ執行力アル正本ヲ求ムル申請ナリ故ニ裁判所ヨリ附記アリタルトキハ保証金ヲ要セス差押ヲナスコト得ルナリ故ニ裁判所ヨリ附記アリタルトキハ執行力ヘ豫納ヲ執行ノ委任ヲナスヘシ此ノ書面ヲ裁判所ヘ差出スニハ前例ノ如ク規定ノ印紙貼用シテ執達吏ヘ送達費用ヲ納ムヘシ尙ホ印紙ヘモ消印ナシ然ル上裁判所ヘ差出スベシ左ニ條文及ヒ書式ヲ掲ク

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ附シタル判決ノ正本

ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級
 裁判所ニ繫属スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ附與ス
 執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス
 コトヲ得

（執行文附與申請書式ノ例）

部之訟訴事民

執行文附與申請

五〇

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

右當事者御應明治年(何)第何號何々事件ハ去ル明治年月日
判決言渡明治年月日判決正本何告へ送達濟ニ有之候處何
告ハ判決ニ對シ期間内ニ上訴ヲ爲ササリシニ付キ判決確
定強制執行致度候間執行文附與被成下度此段申請候也

右

年 月 日

何告

某印

何裁判所判事 某殿

意注

執行文附與アル書類カ相手方へ送達ヲ受ケタルト判判決正本送達アリ
シ日ヲ起算シ其止本送達ヨリ一ヶ月ヲ經過セサル場合ハ判決確定ニ至
ラサルモ付キ異議ノ申立ヲナスヘシ此申立書ハ前例ニヨル費用豫
納印紙ノ消印ヲ要スルナリ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

第五百二十二條

執行文ノ附與ニ對シ債務者カ異議ヲ

申立テタルトキハ其執行文ヲ附與シタル裁判所書記

ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保証

ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメヌシテ強制執行ヲ一

時停止シ又ハ保証ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可

キヲ命スルコトヲ得

五一

部之訟訴事民

部之訟訴事民

(執行文附與ニ對スル異議申立書式ノ例)

執行文附與ニ對スル異議申立

縣郡市町村字番地族稱職業

申立人

某

原告何ノ誰ヨリ右申立人ニ係ル御廳明治年(何)第何號何々
事件ノ判決ハ明治年月日債權者某ノ申請ニヨリ執行文附
與相成ヨタルモ右判決カ申立人へ送達セラレタルハ明治
年月日ニシテ右判決ハ未タ確定ニ至ラス依テ茲ニ異議申
立候也

右

年 月 日

申立人

某(印)

部之訟訴事民

何裁判所判事 某殿

注 右ノ書式ニヨリ異議申立タルトキハ又裁判アルナリ執行モ申立ニヨ
リ停止スルモノトス

注 支拂命令ヲ申請スルカハ又ハ訴訟ヲ爲ス場合ニ當リ相手方カ其情ヲ知リ
テ手續進行中ニ財産ヲ隠匿シ又ハ他へ運搬スルノ虞アルトキハ裁判所
ノ定ムル保証ヲ立テ相手方ノ財産ヲ差押スル手續キチナスベシ書面ヘ
ハ規定ノ印紙貼用スヘシ裁判所ヨリ命令書下付ノ片ハ執達吏へ費用ヲ
納メ執行委任スヘシ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサ

ルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

民 事 訴 訟 之 部

五四

請求及假差押ノ理由ハ之ヲ説明スヘシ
申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十一條

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辨
論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖モ假差
押ニ因リ債務者ニ生スベキ損害ノ爲メ債權者カ裁判
所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキ
ハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得
又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト雖モ裁
判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得
保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如

民 事 訴 訟 之 部

何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令
ニ記載ス可シ

(有体動産假差押命令申請書式ノ例)

有体動産假差押命令申請

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

某

請求金額

一金何百圓也

貸金又ハ何々金

貸付明治年月日
辨濟期明治年月日

五五

部之訟訴事民

五六

一金 圓、右利子 貸 付明治年月日ヨリ何年月日迄
右請求金額ニ對シ債務者所有ノ有体動產ヲ假差押スル旨
ノ御命令相成度候

申請ノ事由

債務者何某ニ對シ前記請求金額ヲ明治何年何月何日貸付
ケ返濟期限ハ明治何年何月何日ト約セシニ債務者ハ返濟
期限ニ返金セス加フルニ債務者ハ債務ノ免脱ヲ計ランカ
爲メ其所有財產ヲ他ヘ移轉シ尙ホ殘部ノ動產モ虛偽ノ讓
渡ヲ爲ヌノ手續キニ着手致居リ候ニ付債權保全ノ爲メ急
迫ノ場合トシテ前記假差押命令ヲ申請仕候

説明方法

部之訟訴事民

附屬書類ニヨリ前顯ノ事實ヲ説明ス

右申請候也

年 月 日 右 何 某印

何裁判所判事 某殿

注 付屬書類トハ証書ノ寫ヲ作成シテ申請書ヘ添付スルモノトス其書式左
ニ示ス

證據物ノ寫

紙印 借用証書

一金、利息

~~~~~

五七



部之訟訴事民

、、証書ノ通りヲ寫スモノトス

何、、、、、印

右ノ通りニ候也

右

年 月 日

某印

注意  
右ノ申請ナストキハ裁判所ヨリ保証金供託ノ命令アリ保証金ハ現金又ハ有價証券ヲ供託スルモノトス  
供託書ハ二通ヲ作り保証金額ヲ添へ支金庫へ納メ一通ノ供託書ヲ裁判所へ差出スモノナリ左ニ供託書書式ヲ示ヌ(供託書一通ハ裁判所書記ノ認メヲ要ス)

(供託書書式ノ例)

部之訟訴事民

供託書

縣郡市町村字番地族稱職業

供託者

某

一金、、、

供託ノ原因 債務者縣郡市町村字番地族稱職業何某

ニ係ル貸金請求事件ニ付キ全人所有ノ有体動産假

差押命令申請保証金トシテ供託ス

供託スヘキ法令ノ條項 民事訴訟法第七百四十一條

訴訟事件名及ヒ裁判所名

貸金請求事件 何々裁判所

右供託ス



部之訟訴事民

年 月 日

右

何支金庫御中

某印

注意

右ノ供託書へ支金庫ハ左ノ通り記載スルモノ故其記載ノ通り一通ノ供託書へ寫シ裁判所へ差出スナリ支金庫ハ供託書ノ末尾へ記ス事左ニ

何番號

右受領ス

何支金庫

明治年月日

注意

右ノ手續キチ了セハ直チニ假差押出來得ヘシ  
事件落着セシトキハ裁判所へ証明書下付願チナシ証明書下付アリタルトキ左ノ書式ニヨリ支金庫へ供託金拂渡請求チナスモノナリ其書式ヲ示ス

(証明書下付願書式ノ例)

六〇

部之訟訴事民

供託ノ原因消滅証明書下付願

申請人某被申請人某間ノ何々假差押命令申請ニ付キ明治年月日付第何號供託書ヲ以テ何債權又ハ金圓也保証トシテ何支金庫へ供託致候處今般右假差押解除供託ノ原因消滅致候間該供託物件拂戻請求致候ニ付キ供託原因消滅ノ義御証明被成下度右拂戻ノ義ハ被申請人ニ於テモ異議無之候ニ付キ連署ヲ以テ相願候也

申請人

某印

被申請人

某印

何裁判所判事 某 殿

注 差押物品競賣ナシタル上下付願ナストキハ右書式ノ文中ニアル右拂戻

六一



部之訟訴事民

六一

ノ錢ハ被申請人云々ノ文字ヲ除スヘシ相手方ノ連署ヲ要セス示談ノト  
キニ連署ヲ要スナリ競賣ナシタルトキノ場合ハ右願書ヘ執達吏ニ添書  
ヲ乞フナリ

(供託物拂渡請求書式ノ例)

供託物拂渡請求書

一金……………也

前書ノ金額(何圓)何裁判所ヘ假何々申請ニ付キ保証トシ  
テ供託致シ有之候處今般事件落着原因消滅ニ付キ拂渡相  
受度別紙証明書並ニ供託受領証相添請求候也

住所 番地

年 月 日

何支金庫御中

某印

部之訟訴事民

六三

右請状ノ前ニ供託セシトキノ供託書中末尾ニ支金庫ノ受領証アリ  
其受領証ノ左脇ヘ茲ニ示ス通り書シ然ル上証明書ヲ添ヘ支金庫ヘ差出  
スモノナリ受領証ヘ書ス式ハ左ノ通り

前書ノ金額正ニ領收候也

縣郡市町村字番地族稱職業

年 月 日

受取人

某印

何支金庫御中

注意 (供託書ト拂渡請求書ト証明書ト三通ヲ要スルナリ)

債務者ニ對シ假差押ヲ爲シタル結果示談相調ロタルトキハ差押物件ノ  
解除届ヲ執行吏ヘ差出ス必要アリ其ノ書類ヘハ債務者ノ連印ヲ要スル  
モノナリ左ニ書式ヲ示ス○印紙ノ貼用ヲ要セス

(有体動産假差押解除届書式ノ例)

有体動産假差押解除御届



部之訟訴事民

六四

一債權者何某債務者何某間ノ有体動産假差押件何裁判所ノ命令ニ基キ執行ノ委任致シ有之處今般爾談和解相整ヒ候間假差押解除被成下度此段御届申上候也

債權者

債務者

年 月 日

何

某印

何

某印

何裁判所

某印

執達吏 某 殿

注 不動産ヲ抵當トシテ登記手續ヲ經アルニ期限ニ其借用金ヲ辨濟セサルトキハ競賣ノ申立ヲナスモノトス其申立書ヘハ規定ノ印紙ヲ要スルナ

意 リ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

號第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコ

トヲ要ス

賣 申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之

ニ署名捺印スヘシ

法 一債務者及ヒ所有者ノ氏名住所

二競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示

三競賣ノ原因タル事由

四年 月 日

五裁判所

申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ

六五

部之訟訴事民



民 事 訴 訟 之 部

六六

謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀  
ヲ添附スルコトヲ要ス  
民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號  
第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用  
ス

(不動産競賣申立書ノ例)

不動産競賣申立書

縣郡市町村字番地族稱職業

申立人

某

縣郡市町村字番地族稱職業

民 事 訴 訟 之 部

六七

被申立人

某

競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示

縣郡市町村大字字地番

一 郡村敷地何反何畝歩

右宅地ニアル建物

一 木造地瓦葺平家本宅 壹棟

此建坪何々々々但造作付

此見積價格金々々々々也

債權額

一金々々々々也



但明治年月日貸付返濟期限明治年月日  
但利子一ヶ月元金一圓ニ付何……約

右表示ノ不動産抵當權設定シ金何、ト前記ノ約ニテ債  
務者某ニ貸渡候處期限經過候モ元利金ノ返濟無之依テ該  
表示ノ不動産競賣開始決定手續相成度別紙登記簿謄本及  
ヒ公課証明不動産目錄並ニ証書寫相添申立候也

右

年月日

申立人

某印

何裁判所判事某殿

注意

不動産競賣申立書へ付屬書類トシテ必要ノ物ハ登記簿謄本ト役場ノ公  
課証明書ト競賣不動産ノ目錄ト借用証書ノ寫ハ登記ノ証明モ共  
ニ全部寫スモノトス左ニ登記簿謄本下付申請書式及ヒ公課証明書願書  
ノ式ヲ示ス

登録税ヲモ要ス

(土地建物登記簿謄本下付申請書ノ例)

土地建物登記簿本下付申請

郡、村、大字、字番地

一 郡村敷地何坪、

右敷地内建設ノ建物

建物番號、

一 木造瓦葺又ハ、平家 壹棟

建坪、

一手敷料金、

右土地建物登記簿謄本下付相成度此段申請候也



部之訟訴事民

縣郡市町村字番地

年 月 日

何裁判所御中

某印

(公課證明願書式ノ例)

公課證明願

縣郡市町村大字何字番地

一郡村宅地 何々々歩

右宅地内ノ建設

一木造々々平家々々

一棟

建坪何々々

部之訟訴事民

右土地及ヒ建物ハ郡村大字番地某ノ所有ニ有之候處今般  
自分ヨリ何裁判所へ競賣申立ニ付キ必要有之候間右土地  
建物ニ對スル納ムヘキ一ケ年ノ公課有無御証明被成下度  
此段願上候也

郡市町村字番地

某印

年 月 日

何町村長 某 殿

注 右役場へ証明願ヲナストキハ郵便切手封入ノ上書面ニテ照會スルモ差  
支ナシ 假執行宣告ヲ付シタル命令ニヨリ強制執行受ケタルトキ前頁ノ故障申  
立書ト同時ニ執行停止命令ヲ差出ス必要アリ裁判所ニ於テ争イ中ノ物  
ト雖モ執行ノ場合ハ執行停止セシテ進行スルモノナルニヨリ必ず停止命  
令申請ノ必要アリ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス申請書ヘハ印紙貼用スルナ  
リ目次ノ印紙法ノ決ヲ見ルヘシ差出ノ場合ハ前例ニヨル



第五百條

原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ  
 裁判所ハ申立ニ因リ保証ヲ立テシメ又ハ保証ヲ立テ  
 シメスシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又  
 ハ保証ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲スヘキコトヲ命シ  
 及ヒ保証ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス  
 可キヲ命スルコトヲ得  
 保証ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行  
 ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生スヘキコトヲ疏明  
 スルトキニ限リ之ヲ許ス  
 右裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁  
 判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百十二條

假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故  
 障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定  
 ヲ準用ス

(執行停止命令申請書ノ例)

執行停止命令申請書

縣郡市町村字番地族稱職業

申立人

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被申立人

某

右申請人ヨリ申請人ニ對スル何……事件ノ爲メ假執行ノ  
 宣言アル執行命令ニ基キ被申請人ハ明治年月日強制執行



ナシタルモ何月何日執行命令ニ對スル故障申立ヲナシタ  
ルニヨリ判決確定ニ至ルマテ執行停止命令相成度此段申  
請候也

右

年 月 日 申請人

某印

何裁判所判事 某殿

注意 此ノ申請ヲ爲ス場合ハ保証金ヲ要ス保証金ハ裁判所ノ命令ニヨリ前供  
託書ノ書式ニ從ヒ供託スルモノナリ

注

例ヘハ茲ニ自分所有ノ物件ヲ他人ヘ貸貸又ハ貸與ヘタルトセヨ賃借人  
ハ其物件ヲ使用シツハアリ其債主ハ他ノ債務アリ債權者ノ爲メ強制執  
行ニテ財産差押ヘラルハ場合ニ債務者ハ他人ノ物件ナル旨主張スルモ  
其主張ヲ債權者否認シテ差押ヘチ爲シタル場合債主カ權利ヲ主張シ裁  
判所ヘ訴ヲナス必要アリ訴ハ訴狀ヲ提出シテ裁判ヲ求メ強制執行停止

命令ヲ申請スルモノトス裁判所ニテ物件ニ付キ争中ト雖モ停止命令申  
請シテ執行ヲ止メザレバ争中ニ拘ハラヌ競賣ノ進行ナスモノナリ前例  
ニヨリ書面ヘハ規定ノ印紙費用ヲ要ス

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所

有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若シハ引渡シテ妨ク  
ル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強  
制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議  
ヲ正當ヤリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シ  
テ之ヲ主張ス可シ  
右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共  
同被告トナス  
右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區



裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地  
ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス  
強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ  
付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ  
準用ス但執行處分ノ取消ハ保証ヲ立テシメスレテ之  
ヲ爲スコトヲ得

(強制執行ニ對スル異議訴狀ノ例)

強制執行ニ對スル異議訴狀

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業  
被告  
某

訴訟目的物

何十何点

〃〃〃本

一何〃〃〃〃  
一〃〃〃〃〃〃  
一〃〃〃〃〃〃

以上……………点

此見積價格金

本訴目的物ニ對スル差押ノ解除ヲ請求スルニアリ

一定ノ申立

被告カ明治年月日訴外人縣郡市町村字番地何某ノ住所ニ



於テ同人ニ對スル強制執行ノ爲メ差押ヲ爲シタル原告所  
有ノ何々物品ヲ書スヘシ……ノ差押ヲ解除シ及ヒ訴訟  
費用ハ被告ノ負擔タルヘシトノ御判決相成度候

事實

被告カ明治年月日訴外人縣郡市町村字番地某ノ住所ニ於  
テ同人ニ對スル強制執行ノ爲メ差押ヲ爲シタル別紙目錄  
ノ物品ハ原告ノ所有ニシテ當時某へ何々ノ約定ニテ貸渡  
中ノモノニ有之ニ付キ被告執行ノ際某ヨリ該物件ハ原告  
所有ノ物件ニテ原告ヨリ借受ケ居ル旨陳述スルモ被告ハ  
之ヲ否認シテ差押ヲ爲シタリ故ニ不得止本訴ヲ提起シテ  
之レカ差押ノ解除ヲ請求スル次第ニ有之候

立証方法

差押調書并ニ何々ノ証ヲ以テ立証シ口頭辨論ノ際提供可  
仕候

右

年 月 日

某印

何裁判所判事某殿

立証ニ必要ナル差押調書ハ費用納メ執達吏役宛へ請求スルモノトス此  
調書ハ口頭辨論ノ際提出スルナリ証據物トナル書類ハ其際提出スルヲ  
要ス  
執行停止命令ハ左ニ示ス

(強制執行停止命令申請書ノ例) 訴狀ト同時ニ提出スルモノトス

強制執行停止命令申請書



民事訴訟部

八〇

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

右被告何某ヨリ訴外人郡市町村大字番地何某ニ對スル何  
裁判所ノ執行命令ニ基キ有体動産又ハ……ノ差押ヲ爲  
シタル物件中別紙目錄ノ何……ハ原告ノ所有物ナルヲ  
以テ其差押ニ對シ異議ノ訴ヲ提起致既ニ訴訟中ノ物件ニ  
有之候處若シ被告ニ於テ其強制執行ヲ續行セハ原告後日  
ニ至リ償フヘカヲサル損害ヲ蒙ルヘキニヨリ本訴判決迄  
其強制執行停止ノ御命令相成度此段申請候也

民事訴訟部

年 月 日

右

某印

何裁判所判事某殿

注 右ノ申請ニテ執行ヲ停止スルナリ前訴狀辨論ノ際ハ證據書類ニヨリ立  
証スルモノナルヲ以テ取調ヘ置ク必要アリ

注 或ル事件ニ付キ口頭辯論ヲナシ証據人ヲ裁判所ヘ呼出ス場合ハ左ノ申  
請書式ニヨリ申請スヘシ証人申請ハ証人ノ旅費日當ヲ裁判所ヘ納ムル  
モノナリ書類ヘモ印紙及ヒ呼出費用ヲ要ス茲ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

第二百九十一條 人証ノ申出ハ証人ヲ指名シ及ヒ証人

ノ訊問ヲ受ク可キ事實ヲ表示シテ之ヲ爲ス

(證據調ノ申請書式ノ例)

證據調ノ申請

八一



民 事 訴 訟 部

原告 某  
被告 某

右當事者ノ御應明治年(何)第號何々事件ニ付キ左ノ証據調  
相成度候

人証ノ申立

縣郡市町村大字番地

証人

某

訊問事項

一何証人ニ對シテハ証人ハ何々……………ノ何ノ事實アリヤ否ヤ(証人ノ知リ居ル事ヲ記載スヘシ)之レニ關スル事項

民 事 訴 訟 部

右申立候也

年 月 日

右

某

何裁判所判事某殿

注 証人申請スルトキハ別紙へ訊問事項トシテ証人ノ知ル事實ヲ左ノ書式ノ通り認メ申請書へ添付スヘシ

訊問事項

一証人ハ(申請書ノ訊問事項ヲ記載スルモノナリ)  
(右事項ヲ書シタルノミニテ差出スナリ)

注 訴訟事件ニ付キテハ証據物ヲ裁判所へ差出スニ其証據物へ甲何號証ト記スモノナリ或ハ乙何號証トス其証據物ニアル印影又ハ筆跡ヲ被告力否認シタルトキハ裁判所へ檢査ノ申立ヲナスヘシ此費用ハ証人申請ト全權ナリ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス



第三百五十二條

私署証書ノ眞否ニ付キ争アルトキハ

裁判所ハ舉証者ノ申立ニ因リ檢眞ヲ爲スコトヲ得

(檢眞ノ申立書式ノ例)

檢眞ノ申立

原告

某

被告

某

右當事者間ノ御廳明治年何第號何事件ニ付キ被告ハ甲第何號証ニアル被告名下ノ印影ヲ否認致候間何役場又ハ何所ニ備置ノ印鑑簿中被告ノ印鑑ヲ對照檢眞被成下度申立候也(又筆跡否認シタルトキハ被告自筆ト認ムル何々証ヲ對照書類トシテ檢眞被成下度候也)ト記ス

第三百二十三條

鑑定ノ申立ハ鑑定ス可キ事項ヲ表示

シテ之ヲ爲ス

(鑑定申請書式ノ例)

鑑定申請

原告

某

被告

某

右當事者間ノ御廳明治年何第號何事件ニ對シ鑑定人撰定左記ノ事項ニ付鑑定ヲ命セラレ度此段申請仕候也

鑑定事項



一何告カ提出セシ何第何號証ニ押捺アル何告名下ノ印影  
ハ町村役場ノ印鑑簿中ニアリ何告人ノ印影ト全一ナリヤ  
否  
右申請候也

年 月 日

何告

某印

何裁判所判事某殿

注 例ハハ債權者ト債務者カ訴訟ヲナシ債權者カ勝利ヲナシ裁判確定シタ  
ルニヨリ執行力アル正本ヲ求メタトセヨ然ルニ債務者ニ於テハ其請求  
金額ヲ辯濟スル財産ナシ尤モ執行ノ結果ノ了然レトモ債務者カ他人ハ  
貸金アリ借主ハ債務者ヘ支拂フ義務財産アリトセヨ其場合ハ債務者ノ  
有スル第三債務者ニ對スル債權ヲ辨濟ニ充ツル爲債權ノ差押ヲ爲スモ  
ノトス裁判所ハ債務者ニ對シ金額ヲ第三債務者ヨリ受取ルヘカラス第  
三債務者ハ債務者ヘ支拂フヘカラストノ命令ヲ送達スルモノナリ其手

續キ及ヒ條文書式ヲ左ニ示ス

第五百九十六條

債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フヘ

キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條

差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務

ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條

金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判

所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁

シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カ

ラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ



部之訟訴事民

送達シ又債務者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ  
差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタル  
モノト看做ス

(債權差押命令申請書ノ例)

債權差押命令申請書

縣郡市町村大字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村大字番地族稱職業

債務者

某

縣郡市町村大字番地族稱職業

第三債務者

某

部之訟訴事民

請求金ノ數額

一金何百圓也

債權額貸金又ハ何金

一金何拾圓也

明治年月日ヨリ年月日迄ノ利子

一金何圓也

訴訟費用金

合計金……………也

差押フヘキ目的ノ債權金額

一金何百圓也

債務者カ第三債務者ニ對スル貸金

但シ明治年

月日

貸付  
辨濟期

一金何圓也

右貸付ヨリ年月日迄元金壹圓ニ付キ

壹ヶ月金何々ノ利子

計金……………也



右債權者カ債務者某ニ對シ爲シタル何裁判所明治(何)第  
何號何々請求事件ハ執行力アル正本ニ基キ辨濟ノ義務ア  
ルモノニ候處右債務者ハ第三債務者ニ對シ右記載ノ債權  
ヲ有シ居リ候ニ付キ前記請求金額ノ辨濟ニ充ツル爲メ債  
務者カ第三債務者ヨリ受クヘキ前記債權差押ノ御命令相  
成度此段申請候也

右

年 月 日

債權者

某印

何裁判所判事某殿

注意

債權者カ債權ヲ差押ヘタルトキ債權者ハ裁判所ヘ差押債權ヲ取立ツヘ  
キ申請ヲ爲ス手續キアリ茲ニ其條文及ヒ其書式ヲ示ス  
債權轉付命令申請ノ手續ハ取立命令ニ同シ書式在

第六百二條

取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フ  
モノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債  
權者ヲ訊審シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制  
限シ其ノ超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコ  
トヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要  
求ヲ爲スコトヲ得ス  
右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知スヘシ

(債權取立命令申請書式ノ例)

債權取立命令申請書

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某



部之訟訴事民

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

第三債務者

某

債權者ノ請求金額

一金……………也

差押ヘタル債權數額

一金……………也

右當事者間ノ御廳明治年何第號債權差押命令ニ基キ差押ヘタル債務者某カ第三債務者ニ對シ有スル債權ヲ債權者ニ於テ取立ツヘキ御命令相成度此段申請候也

部之訟訴事民

年 月 日

右

債權者

某

印

何裁判所判事某殿

意注

債務者力返金セサルニヨリ不動産ヲ假差押ヘナスノ手廻ヲ示ス之ハ前頁ノ有体動産假差押ト全權ナル手續キナルモ茲ニ其書式ヲ掲ク保証金費用等ハ有体動産假差押ノ例ニ依ルヘシ

(不動産假差押命令申請書ノ例)

不動産假差押命令申請書

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村字番地族稱職業



部之訟訴事民

請求金額

一金何百圓也 貸主

一金何……也 利子

假差押目的物

縣郡市町村大字何字……

一田 畝 步

此見積價格金

縣郡市町村大字何字……

一何……

此見積價格金

九四

債務者

某

明治年月日貸付  
全年月日辨濟期  
明治年月日ヨリ全年月日迄一ヶ月元金  
一圓ニ付キ何ノ割

部之訟訴事民

被申請人所有ニ係ル前顯ノ不動産ニ對シ仮差押ノ御命令  
相成度候

申請ノ事由及ヒ疏明

右債權者ハ右債務者ニ對シ明治年月日金〆〆ノ貸渡シ  
返濟期限ハ明治年月日利子ハ元金壹圓ニ付キ一ヶ月金何  
ノ割ニテ別紙証書寫ノ如ク約定候處債務者ハ期日經過候  
モ元利共今ニ義務ノ履行セサルノミナラズ債務ノ免脱ヲ  
計ラシカ爲メ其所有財産ノ多額分ヲ已ニ他へ移轉シ尙殘  
部ノ動産モ虚偽ノ讓渡ヲナスノ手續キニ着手致居リ候事  
實ヲ探知候ニ付キ本要訴訟ノ提起ヲ爲スニ迫アラズ急迫  
ノ場合債權保全ノ爲メ御衙ニ對シ前記仮差押命令ヲ申請

九五



民 事 訴 訟 之 部

仕 候

年 月 日

右

債 權 者

某 印

何 裁 判 所 判 事 某 殿

注 意

附 屬 書 類 ト シ テ 右 申 請 ニ 必 要 ナ ル モ ノ ハ 証 書 寫 登 記 簿 ノ 謄 本 不 動 産 目 録 等 ナ リ 之 レ チ 申 請 書 ヘ 添 付 ス ル モ ノ ト ス 供 託 書 式 ハ 前 例 ノ 通 リ ナ リ

注 意

右 ノ 假 差 押 命 令 申 請 ナ シ タ ル 上 ハ 假 差 押 命 令 執 行 申 請 ノ 必 要 ア リ 茲 ニ 其 書 式 チ 示 ス

( 不 動 産 仮 差 押 命 令 執 行 申 請 書 ノ 例 )

不 動 産 仮 差 押 命 令 執 行 申 請 書

縣 郡 市 町 村 字 番 地 族 稱 職 業

民 事 訴 訟 之 部

年 月 日

右

債 權 者

某

何 裁 判 所 判 事 某 殿

注 意

債 權 差 押 ア リ タ ル 第 三 債 務 者 ハ 其 債 務 額 チ 支 金 庫 ヘ 供 託 ス ル コ ト ア リ 差 押 債 權 ノ 爲 メ 他 ヨ リ 配 當 要 求 ア リ 其 要 求 書 送 達 ア リ タ ル ト キ ハ 供 託 ノ 旨 届 出 ツ ル 必 要 ア リ 左 ニ 條 文 及 ビ 書 式 チ 示 ス

債 權 者

某

縣 郡 市 町 村 大 字 番 地 族 稱 職 業

債 務 者

某

右 當 事 者 間 ノ 御 廳 明 治 年 何 第 號 不 動 産 仮 差 押 命 令 申 請 ノ 別 紙 目 録 ノ 不 動 産 仮 差 押 命 令 相 成 候 右 命 令 ノ 執 行 被 成 下 度 此 段 申 請 候 也



第六百二十一條

金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達

ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權ノ求ニ因リ債權

額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判

所ニ届出ツ可シ

(債務額供託届書式ノ例)

債權者

某

債務者

某

第三債務者

某

右當事者間ノ債權ニ對スル執行事件ニ付キ右債務者某カ

第三債務者ニ對シ有スル債權金額何百圓ニ對シ債權者某ノ申請ニヨリ御廳明治年(何)第號債權差押命令ニ因リ差押相成候處前記債務額ハ明治年月日第三債務者ニ於テ何支金庫へ供託致候間此段御届置候也

右

年 月 日

第三債務者

某(印)

何裁判所判事某殿

注

債務者カ債權者ニ返済ノ履行ヲセス又債務ヲ免カレンカ爲メ財産ヲ隠匿スル模様アル場合ニ債務者カ又他ヘ貸金アルトキハ其債權ヲ差押ヘ示ス保証金供託ニ付テハ前例ニヨルヘシ

第七百三十七條(以下)

假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不



部之訴訟事民

不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコト  
ヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲  
スコトヲ得

(債權假差押命令申請書式ノ例)

債權假差押命令申請書

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

部之訴訟事民

一金何百圓也 明治年月日ノ(貸金又ハ家賃又ハ何ノ  
ノ前例ニ依ルヘシ)

請求金額

第三債務者

某

一金圓也 假差押費用

差押フヘキ目的ノ債權額

一金何ノノノ 右債務者ハ明治年月日ノ貸金証書ニヨ  
リ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受クヘキ貸

元金

一金ノノノノ 明治年月日ヨリ全年月日迄元金一圓ニ  
付キ一ヶ月金何ノノノノ利子



計金、ハ、ハ、ハ、ハ、也

右債權假差押ノ御命令相成度候

申請ノ事由及ヒ疏明

右債務者ニ對シ明治年月日付貸金証書(又ハ何々)ニ因リ  
 債權者ハ明治年月日右債務者ニ係ル訴ヲ提起ナシタルニ  
 債務者ハ其執行ヲ免レントシテ其所有動產ヲ他ヘ移轉シ  
 尙殘部ノ財產ヲ他ヘ虚偽ノ讓渡シテ爲ス手續ヲ致居ル由  
 ナ探知候間債權保全ノ爲メ今日之レカ差押ヲ爲スニ非ラ  
 カレハ判決後債權者カ執行ナスニ當リ無財產ノ不幸ニ立  
 至ルヘク依テ前記債權ノ假差押ヲ申請スル次第ニ有之候

右

年 月 日

債權者

某印

何裁判所判事某殿

注 意

例ハ茲ニ結婚ヲナシタルトセヨ結婚後種々ノ苦情ニテ離婚トナリ本  
 人買家ヘ歸リタル場合ニ必ス持參ナセシ物品ヲ受取ル必要アリ其場合  
 ニ先方ハ種々ノ苦情ヲ以テ前物ヲ引渡ササルトキ裁判所ヘ申請シテ執  
 達吏ヘ委任ナシ直チニ前物ヲ引上ケル手續キアリ左ニ條文及ヒ手續書  
 式ヲ示ス尤モ此申請ハ假處分命令申請ト云ヒ前例ノ通り差押ト同様ノ  
 例ニ付キ保証金及ヒ執行費用並ニ印紙貼用ノ必要アリ目次ニ因リ印紙  
 ノ貼用額ヲ知ルベシ  
 前例ニヨリ供託書モ作成スベシ

第七百五十五條 係爭物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更

ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又  
 ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許  
 ス







年 月 日

右

申請人

某印

何裁判所判事某殿

注意 右假處分命令申請ニハ物品ノ目錄ヲ作成シ申請書ヘ添付スベシ

注意 假差押又ハ假處分ヲ受ケタル場合ニ相手方ノ債權者又ハ申請人カ其儘ニテ起訴セサルキハ辨明ノ爲メ訴訟提起命令ヲ申請スル必要アリ其書式及ヒ條文ヲ左ニ示ス 書類提出ノ場合ハ前例ニヨルベシ

第七百四十六條

本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押

裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辨論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起スヘキコトヲ債權者ニ命ス可シ此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

(訴訟提起命令申請書式ノ例)

訴訟提起命令申請書

縣郡市町村大字番地族稱職業

申請人

某

縣郡市町村大字番地族稱職業

被申請人

某

被申請人ハ申請人ニ對シ貸金又ハ何々アル旨ヲ以テ明治年月日何裁判所(何)第何號假差押命令ヲ以テ申請人所有ノ有体動産又ハ不動産ヲ假差押ナシタルモ被申請人ハ未タ本件ニ付キ其訴訟ヲ提起セサルニ付キ被申請人ニ對シ相當ノ期間内ニ右訴訟提起可致旨御命令相成度此段申請候



民 事 訟 事 之 部

也

年 月 日

右

申請人

某

印

何裁判所判事某殿

注 意

不動産登記ヲ經テ金圓ヲ貸附ケアルニ借主ハ其抵當ノ擔保物ヲ他ヘ其  
備覽渡シ返金セサルトキハ其買受人ニ對スル競賣ノ手續キアリ其手續  
キチ爲サントセバ先ツ左記示ス處ノ通知書ヲ發スヘキ規定在リ條文ハ  
民法ノ部ニ掲ゲアルニ付キ條文ヲ除シ書式ヲ示ス此ノ通知書ヲ執達吏  
ニ托シ送達ナシ三十日間ヲ經過シタル上競賣ヲ申立ツハ被通知人カ  
競賣ヲ避ケントスル場合ハ三十日間内ニ金額ヲ辨濟スルモノトス書式  
ハ左ニ

(抵當權實行通知書ノ例)

抵當權實行通知書

縣郡市町村字番地族稱職業

民 事 訟 事 之 部

被通知人カ明治年月日取得セラレ候縣郡市町村字番地族  
稱職業何某ノ元ト所有ニ係ル別紙目錄ノ不動産ハ通知人  
ニ於テ去ル明治年月日債務者某ト約セル抵當權設定契約  
ニ因リ通知人ニ抵當權ヲ有シ居リ候處債務者ハ元金、  
之レニ對スル何ノ約定利子ヲ明治年月日ノ辨濟期ニ義  
務ノ履行ヲ爲ササルニ依リ右抵當權ヲ實行可致候條民法  
第三百八十一條ニ依リ此段及通知候也

右

通知人

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被通知人

某



部之訟訴事民

一一〇

被通知人某殿

年 月 日

通知人

某印

注意  
右書類二通ヲ作り送達費用ヲ添ヘテ執達吏ヘ差出スベシ通知後三十日  
内ニ辨濟セサルトキハ左ノ書式ニ基キ競賣スルモノトスケウ賣ノ申立  
書ヘハ通知書ノ寫添ヘ其通知書ト何年月日送達濟ノ証明ヲ執達吏ニ依  
賴スベシ左ニ申立書ノ式ヲ示ス

(不動産競賣申立書ノ例)

不動産競賣申立書

縣郡市町村字番地族稱職業

申立人

某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

部之訟訴事民

不動産所有者

某

競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示

縣郡市町村字番地字何番

一田 反 畝 步

此見積價格金圓也

一定ノ債權額

一金何百圓也

但明治年月日貸付 辨濟期明治年月日  
利息一ヶ月一圓ニ付錢ノ約定

右表示ノ不動産ヲ明治年月日付証書ニヨリ抵當權設定ノ  
上右債務者某ニ金何百圓ヲ前記ノ契約ニテ貸渡シタル處  
期限經過候モ債務者ハ元利金ノ支拂ヲ爲ササルノミナラ

一一一



民 事 訴 訟 之 部

一一二

ス別紙登記簿謄本ノ通り右債務者ハ明治年月日附賣買証書ニ因リ該不動産ヲ縣郡市町村字番地何某ニ賣渡シタルニヨリ申立人ハ民法ノ規定ニ因リ抵當權實行ノ通知書ヲ發シ膏之候間右不動産ノ競賣開始手續被成下度抵當權實行通知書寫登記簿謄本公課証明不動産目錄及ヒ借用証券寫相添此段申立候也

右

年 月 日

申立人

某印

何裁判所判事某殿

注 此ケウ賣費用及ヒ印紙貼用額等ハ前頁ノ不動産ケウ賣申立書ノ例ニヨルベシ

民 事 訴 訟 之 部

一一三

注 前ニアル債權差押ヲ爲シタルトキハ債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル債權ノ差押券面額ヲ支拂ニ換ヘ差押債權者ヘ轉付スルノ命令ヲ申請スル必要アリ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

第六百條

差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラシコトヲ申請スルコトヲ得  
右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス（右五百九十八條ノ條文ハ前頁ノ債權差押命令申請書式ノ頁數ニアリ故ニ茲ニ除ス）

（債權轉付命令申請書ノ例）

債權轉付命令申請



部之訟訴事民

一四

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

某

縣郡市町村字番地族稱職業

第三債務者

某

債權者請求ノ表示

一金何、〃圓也

貸金

一金〃〃〃也

明治年月日ヨリ年月日迄ノ利子

一金〃〃〃也

訴訟費用金

合計金〃〃〃也

部之訟訴事民

差押タル債權額

一金〃〃〃也

右債務者カ第三債務者ニ對シ有スル前記債權ハ右債權者ノ申請ニヨリ明治年(何)第何號ノ債權差押命令ヲ以テ差押ヘ候處支拂ニ換ヘ券面額ニテ右債權者ニ該債權ヲ轉付スルコトノ御命令被成下度民事訴訟法第六百條ニ依リ此段申請候也

右

年 月 日

債權者

某印

何裁判所判事某殿

注 右ノ書式ニヨリ債權差押ヲ爲シ轉付命令ナシタル場合ニ請求金額ヨリ差押債權額カ多クシテ請求額ヨリ超過シタルトキ超過額ノ處分許可命

一五



民 事 訟 訟 部

意 令ヲ受クル場合アリ左ニ其格式ヲ示ス  
右ノ條文ハ前ニ在ル債權取立命令ノ條文ヲ適用スルモノナルニ依リ茲  
ニ條文ヲ除ス

(債權差押額ノ制限及ヒ超過額處分許可命令申  
請書ノ例)

差押額ノ制限及ヒ超過額處分許可命令申請書

縣郡市町村字番地族稱職業

債權者 某

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者 某

縣郡市町村字番地族稱職業

第三債務者 某

民 事 訟 訟 部

債權者請求金額  
一金、〃、〃也 (但合計金ヲ記載ノ事)  
差押タル債權金額  
一金、〃、〃也 (但合計金ヲ記載ス)  
右債務者某カ第三債務者ニ對シテ有スル債權ハ右債權者  
ノ申請ニヨリ御廳明治年(何)第何號差押命令ニ基キ債權ヲ  
差押ヘ候處右債權者ノ請求金額ハ何圓ニテ差押ヘタル債  
權金額ハ何圓ニシテ金何圓ノ超過額有之候ニ付テハ右債  
權差押命令ヲ債權者ノ請求額迄ニ制限セラレ其超過額ニ  
對シテハ右債務者カ取立テ得ルコトノ許可命令相成度民  
事訴訟法第六百二條ニ依リ此段申請仕候也



部之訟訴事民

年 月 日  
何裁判所判事某殿

債權者

某

意注

貸金又は賣掛代金ノ訴ヲ起サントスルトキハ左ノ書式ニヨリ金額ニ應  
シ民事訴訟印紙法ニヨリ貼用スベシ假住所ヲナス場合ハ前頁ニアル書  
式ノ通り認ムベシ

意注

金額二百圓マテノ訴訟ハ區裁判所ニテ訴訟ヲナシ二百圓以上ナルトキ  
ハ地方裁判所ヘ訴ヲナスモノトス然レトモ管轄裁判所ノ合意契約アル  
場合ハ其金額ニ拘ラス合意アル裁判所ニテ訴訟スルモノトス茲ニ條文  
及ヒ其書式ヲ左ニ示ス訴狀提出ノ場合ハ前例ノ通り費用ヲ執達吏役場  
ヘ納ムベシ

第百九十條

爲ス

訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ

部之訟訴事民

此訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二起シタル請求ノ一定ノ目的物及ヒ請求ノ一定

ノ原因

第三一定ノ申立

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ  
作り且裁判所ノ管轄カ訴訟物ノ價額ニ依リ定マル場  
合ニ於テ訴訟物カ一定ノ金額ニ非サルトキハ其價額  
ヲ掲ク可シ

○賣掛代金(訴狀ノ書式)

訴狀



部之訟訴事民

110

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

賣掛代金請求事件

訴訟目的物

一金、〆、〆、也

賣掛代金

一定ノ申立

原告カ明治年月日ヨリ明治年月日マテニ被告ニ賣渡シタル何々代金ヲ辨濟シ訴訟費用ハ被告ノ負擔タルベシト御判決アリ度候

部之訟訴事民

請求ノ原因

一原告ハ被告ニ明治年月日ヨリ明治年月日マテニ何々外何点ヲ賣渡シ代金支拂ハ物品引渡ト共ニ直チニ支拂ヲ受クル約チ以テ賣渡シタルニヨリ物品ハ約定ノ通り明治年月日其引渡シテ爲シタルモ被告ハ今ニ代金ノ支拂ヲ爲サズ依テ本訴ヲ提起シタル次第ニ有之候

証據方法

物品受取及ヒ被告カ義務アル旨ノ書面ヲ以テ立証ス

附屬書類ノ表示

一何々帳寫及ヒ書面ノ謄本

右出務致候也

111



部之訟訴事民

二三

年 月 日 右 原告

某印

何裁判所長又ハ判事某殿

(訴狀ハ二通ヲ要ス一通ハ無印紙トス)

貸金 (訴狀ノ書式)

訴狀

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

貸金請求事件

部之訟訴事民

二三

訴訟目的物

一金ノノ也

貸金

一金ノノ也

利子

明治年月日ヨリ明治年月日ニ至ル迄滞リ分

合計

右不履行ヨリ生スル明治年月日ヨリ本件執行済ニ至ル迄金壹圓ニ付キノ損害利率ヲ請求ス

一定ノ申立

被告ハ金ノノ明治年月日ヨリ明治年月日迄ノ利息並ニ

明治年月日ヨリ本件執行ニ至ル迄金壹圓ニ付ノ損害

害利率ヲ添へ原告ニ辨濟シ訴訟費用ハ被告ノ負擔タルハ

シトノ御判決相成度候



民事訴訟部

二四

請求ノ原因

原告ハ被告ニ對シ明治年月日金〆〆、ヲ貸與シ利息ハ月一圓ニ付〆〆ノ約定ニシテ返濟期限明治年月日トシ貸與シタル處期限經過後今日ニ至ルモ元利一切返濟セス依テ出訴致候也

證據方法

一貸金証書一通ヲ以テ請求金額ヲ立証ス

附屬書類ノ表示

一金〆〆〆〆ノ貸金証書寫 壹通

右出訴ニ及ヒ候也

右

年 月 日

原告

某印

何裁判所判事某殿

○家屋明渡及ヒ借賃(訴狀書式ノ例)

訴狀

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

家屋明渡及ヒ家貸請求ノ訴

請求ノ目的

二五

民事訴訟部



民 事 訴 訟 部

縣 郡 市 町 村 大 字 番 地

一 木 造 瓦 葺 平 家

壹 棟

建 坪 〃 〃 〃 合

右 家 屋 ノ 明 渡 及 ヒ 家 賃 ヲ 請 求 ス ル チ 以 テ 本 訴 ノ 目 的 ト ス

一 定 ノ 申 立

原 告 カ 明 治 年 月 日 被 告 ニ 貸 渡 シ ヲ ル 何 縣 郡 市 町 村 大 字 番 地 所 在 木 造 瓦 葺 何 家 一 棟 建 坪 何 ヲ ノ 家 屋 明 渡 及 ヒ 明 治 年 月 日 ヲ 明 治 年 月 日 ニ 至 ル 右 家 屋 ノ 家 賃 金 〃 圓 ノ 辨 濟 ス ベ シ 訴 訟 費 用 ハ 被 告 ノ 負 擔 タ ル ヘ シ ト ノ 判 決 ヲ 求 ム

請 求 ノ 原 因

原 告 ハ 被 告 ニ 對 シ 明 治 年 月 日 前 記 所 有 ノ 家 屋 チ 家 賃 一 〇

民 事 訴 訟 部

月 金 何 圓 ト シ 其 賃 金 ハ 毎 月 末 拂 ノ 約 チ 爲 シ 貸 渡 シ タ ル 處 明 治 年 月 日 ヲ 被 告 ハ 家 賃 チ 支 拂 ハ サ ル チ 以 テ 民 法 ノ 規 定 ニ 從 ヒ 明 治 年 月 日 原 告 ハ 契 約 解 除 ノ 催 告 チ 發 シ タ ル モ 被 告 ハ 該 家 屋 ヲ 明 渡 チ 爲 サ サ ル ニ 因 リ 家 屋 明 渡 及 ヒ 家 賃 ヲ 請 求 ス ル 爲 メ 本 訴 チ 提 起 シ タ ル 次 第 ニ 御 座 候

証 據 方 法

一 家 屋 貸 渡 証 書 チ 以 テ 立 証 ス

附 屬 書 類 ノ 表 示

一 家 屋 貸 渡 証 書 寫

壹 通

右 出 訴 仕 候 也

右



部之訟訴事民

年 月 日

原告

某印

何裁判所長判事某殿

注 右家屋明渡ノ訴ニ付テハ訴ニ先タチ民法ノ規定ニ從ヒ催告書ヲ契約解除ノ爲メ發シ置クモノトス  
茲ニサイ告書ノ書式ヲ示ス

(催告書ノ例)

催告書

縣郡市町村字番地族稱職業

催告人

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被催告人

某

催告人カ明治年月日被催告人ニ貸渡シタル家屋ニ對スル

部之訟訴事民

家賃何ヶ月分金何圓ノ支拂及ヒ本催告書送達ヨリ七日ノ期間内ニ又ハ本月日迄ニ該家屋明渡相成度前約定違約ニ付解除致候間民法第五百四十一條ニ依リ此段及催告候也  
年 月 日 右

催告人

某印

被催告人某殿

本催告書被催告人何某へ御送達相成度候也

年 月 日

右催告人

某印

何裁判所執達吏某殿

注 此ノサイ告書ヲ二通作り送達方ヲ執達吏へ委任スヘシ此書類ハ印紙ノ貼用ヲ要セス



民 事 訴 訟 之 部

注 訴訟中ニ原告又ハ被告カ死亡シタルトキハ其手續ハ中断スルモノナリ其中断シタル訴訟ヲ受継スル手續アリ茲ニ條文及ヒ其書式ヲ示ス

第百八十七條 中断シ又ハ中止シタル訴訟手續ノ受継及ヒ本節ニ定メタル通知ハ原告若クハ被告ヨリ其書面ヲ受訴裁判所ニ差出シ裁判所ハ相手方ニ之ヲ送達ス可シ

(訴訟手續受継通知書ノ例)

訴訟手續受継通知書

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

右當事者間ノ御廳明治年(何)第何號何々請求事件ハ明治年月日原告(又ハ被告)某死亡シタル爲メ其訴訟手續中断シタル處右何告ノ承繼人タル自分ニ於テ該訴訟手續ヲ受継候間此段及通知候也

縣郡市町村字番地族稱職業

年 月 日

何告某承繼人

某印

何告某殿

注 右ノ書面ハ裁判所へ差出ス可シ裁判所ヨリ送達スモノナリ死亡ヲ証スル市町村役場ノ証明ヲ要ス

注 訴訟中ニ原告又ハ被告カ死亡シタルニ其相續人カ訴訟ヲ受継セサルトキハ裁判所へ承繼人呼出ノ申立ヲナスヘシ左ニ條文及ヒ書式ヲ示ス

民 事 訴 訟 之 部



民 事 訴 訟 之 部

第百七十八條

原告若クハ被告ノ死亡シタル場合ニ於テハ承繼人カ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス  
 受繼ヲ遲滯シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ受繼及ヒ本案辨論ノ爲メ其承繼人ヲ呼出ス  
 承繼人期日ニ出頭セサルトキハ申立ニ因リ相手方ノ主張シタル承繼ヲ自白シタルモノト看做シ且裁判所ハ欠席判決ヲ以テ承繼人手續ヲ受繼キタリト言渡ス  
 又本案ノ辨論ハ故障期間ノ滿了後始メテ之ヲ爲シ又其期間内ニ故障ヲ申立テタルトキハ其完結後始メテ之ヲ爲ス

（訴訟手續ノ受繼及ヒ辨論ノ爲メ承繼人呼出ノ

民 事 訴 訟 之 部

申立書式ノ例

訴訟手續受繼及ヒ本案辨論ノ爲メ承繼人呼出ノ申立

縣那市町村字番地族稱職業

原告 某

縣那市町村字番地族稱職業

被告 某

右當事者間ノ御廳明治年(何)第何號何請求事件ハ明治年月日何告死亡シタルニヨリ其訴訟手續中斷ナシタル處何告某ノ承繼人タル家督相續人タル何某ハ今ニ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササルニ因リ受繼及ヒ該辨論ノ爲メ承繼人呼出相



部之訟訴事民

成度此段申立候也

何告承繼人某

縣郡市町村字番地族稱職業

年 月 日

何告

某

何裁判所長又ハ判事某殿

注意 (右前例ノ通り死亡ヲ証スル書類ヲ要ス)

注 裁判所ヨリ訴狀ノ送達ヲ受ケ答辨書ヲ差出ス必要アル場合左ノ書式ニ  
ヨリ作成シ提出スベシ茲ニ條文及ヒ書式ヲ掲ク提出ノ場合ハ前例ノ通  
意

第百九十九條

訴狀送達ノ際十四日ノ期間内ニ答辨書

ヲ差出ス可キコトヲ被告ニ催告ス可シ

答辨書ニハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ヲ適用ス

部之訟訴事民

(答辨書ノ書式)

答辨書

縣郡市町村字番地族稱職業

原告

某

縣郡市町村字番地族稱職業

被告

某

右當事者間ノ御應明治年何第何號何々事件ニ付キ原告ノ  
請求(又ハ主張)ニ對シ答辨ヲ爲スコト左ノ如シ  
原告ハ明治何年月日ノ貸金又ハ何々ノ契約ニ因リ金又ハ  
何々ヲ被告ニ貸與又ハ何シタリト主張スルモ被告ニ於テ  
ハ契約ヲ爲シタルコトナク且又原告ヨリ金錢ヲ借リ受ケ



部之訟訴事民

一三六

タルコト又ハ何々ノコトナシ依テ原告ノ請求ニ應スヘキ義務ナシ

原告ノ証據物トナス年月日ノ何々契約書ハ全部之ヲ否認ス

一定ノ申立

原告ノ請求ハ之ヲ却下ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決相成度候也

年 月 日 被告

某印

何裁判所長又ハ判事某殿

部之訟訴事民

注 配當ヲ要求セントスル債權者ハ左ノ書式ニヨリ執達吏へ提出スヘシ  
茲ニ條文並ニ書式ヲ示ス

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權

者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

(配當要求申立書ノ例)

配當要求申立書

縣郡市町村字番地族稱職業

差押債權者

縣郡市町村字番地族稱職業

債務者

縣郡市町村字番地族稱職業

一三七



民 事 訴 訟 之 部

一三八

配當要求者

某

配當要求債權金額

一金、〃、〃也 貸金 明治年月日貸付元金

一金、〃、〃也 利子 明治年月日ヨリ返済ニ至ルマテ元

一金、〃、〃也 何々費用 金一圓ニ付キ一ヶ月金何々ノ割

計金、〃、〃也

右配當要求債權者カ右債務者ニ對シ明治年月日貸附金又ハ何契約ニヨリ前記債權ヲ有シ候ニ付キ差押債權者某カ債務者ニ係ル動不動産ノ強制執行ニ對シ民事訴訟法第五百八十九條ニ依リ其ノ賣得金ノ配當要求致シ候也

右

年 月 日

配當要求者

某印

何區裁判所執達吏某殿

(訴訟取下書ノ書式)

訴訟取下書

原告

某

被告

某

右當事者間ノ御應明治年何第何號何々請求ハ今般双方示談和解相整ヒ候間該訴訟運署ヲ以テ取下候也

右

年 月 日

原告

某印

被告

某印

民 事 訴 訟 之 部

一三九



部之訟事民

何裁判所長又ハ判事某殿

(右ノ書面ハ印紙ノ貼用ヲ要セス)



民 事 訴 訟 之 部

何裁判所長又ハ判事某殿

(右ノ書面ハ印紙ノ貼用ヲ要セス)

商 法 之 部



商 法 之 部

(商行為履行ノ請求書ノ例)

商行為履行ノ請求書

一明治年月日貴殿ノ代人ナル縣郡市町村大字番地某ト拙者ト別紙記載ノ契約致候處何某ハ貴殿ノ爲メニスルモノナルコトヲ示ササリシモ何某ハ貴殿ノ代理人ナル趣ニ付キ右契約ハ本人ナル貴殿ニ對シテ其效力ヲ生シ候義ニ付キ契約ニ基キ貴殿ニ於テ速カニ履行相成度右商法第二百六十六條ニ依リ此段及御請求候也

縣郡市町村字番地族稱職業

年 月 日

某 印

縣郡市町村字番地族稱職業



何 某 殿

(賣渡物品受取ノ催告書ノ例)

賣渡物品受取催告書

一明治年月日附ノ賣買契約ヲ以テ貴殿ニ賣渡シタル何代  
金支拂ノ上右物品御受取可相成様曩ニ御通知候處今ニ  
代金ノ支拂無之又物品ノ受取モ無之候ニ付テハ更テニ  
本催告書送達ヨリ七日ノ期間ヲ定メ候條此ノ期間内ニ  
代金支拂并ニ該物品受取相成度若シ期間經過候節ハ商  
法ノ規定ニ依リ物品ヲ競賣ニ付シ其代金ヲ以テ賣渡代  
金ニ充當可致商法第二百八十六條ニ依リ此段及催告候  
也

二

縣 郡 市 町 村 字 番 地 族 稱 職 業  
年 月 日 賣 主 某 殿  
縣 郡 市 町 村 字 番 地 族 稱 職 業  
買 主 某 殿

(賣渡物競賣ノ通知書ノ例)

競賣ノ通知書

一明治年月日ノ契約ニ基キ賣渡候何々ハ催告ノ期間内ニ  
代金ノ支拂無之且ツ物品ノ受取無之期間經過候ニ付キ  
商法第二百八十六條ニ依リ右物品競賣ノ上競賣代金ノ  
一部ハ拙者ノ受取ルヘキ代金ニ充當シ殘金圓ハ之ヲ供

三



託致候間此段及通知候也

四

縣郡市町村字番地族稱職業

賣主

某 印

縣郡市町村字番地族稱職業

買主 某 殿

注 競買ハ裁斷判へ申請スヘシ其書式ハ前頁ニアル競買ノ例ニヨリ作ルヘシ供託書モ前例ニヨルヘシ

注 手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキ所持人カ其ノ前者ニ對シ償還請求ヲ爲ス必要アリ左ニ其書式ヲ示ス

(所持人ノ爲メ償還請求通知書ノ例)

償還請求通知書

明治年月日ヲ以テ貴殿ノ裏書セラレタル明治年月日附振

出人某受取人貴殿支拂人某ノ手形金額何圓ノ第何號爲替手形ニ付キ其ノ支拂ヲ求ムル爲明治年月日支拂人ニ呈示シタル處何某ハ其ノ支拂ヲ爲ササルニ因リ同日執達吏何某チンテ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ候仍テ別紙計算書ノ通り貴殿ニ於テ償還相成度商法第四百八十六條及ヒ同第四百八十七條ニ依リ茲ニ償還請求ノ御通知ニ及ヒ候也

縣郡市町村字番地族稱職業

年 月 日 所持人 某 印

縣郡市町村字番地族稱職業

裏書人 某 殿

五



第三章 商 行 爲

第一章 總 則

第二百六十三條

左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行爲トス

- 一 利益ヲ得テ讓渡ス意示テ以テスル動産不動産若クハ有價證券ノ有償取得又ハ其取得シタルモノ讓渡ヲ目的トスル行爲
- 二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有償取得ヲ目的トスル行爲
- 三 取引ニ於テスル取引

第二百六十四條

左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシテ之ヲ

- 四 手形其他ノ商業証券ニ關スル行爲
- 爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス
- 一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有償取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲
- 二 他人ノ爲ニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲
- 三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲
- 四 運送ニ關スル行爲



- 五 作業又ハ勞務ノ請負
  - 六 出版印刷又ハ撮影ニ關スル行爲
  - 七 客ノ來集ヲ目的トスル塲屋ノ取引
  - 八 兩替其他ノ銀行取引
  - 九 保險
  - 十 寄託ノ引受
  - 十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲
  - 十二 商行爲ノ代理ノ引受
- 第二百六十五條** 商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス
- 商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス

- 第二百六十六條** 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其行爲ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケ
- 第二百六十七條** 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲ヲ爲スコトヲ得
- 第二百六十八條** 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セヌ
- 第二百六十九條** 對活者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタ



ル者カ直チニ承諾ヲ爲ササルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第二百七十條

隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

民法第五百二十三條ノ規定ニ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十一條

商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部數ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百七十二條

商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保證ニ因リテ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條

數人カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキハ其債務ハ各自連滯シテ之ヲ負擔ス  
保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行爲ナルトキハ



主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連滯シテ之ヲ負擔ス

第二百七十四條

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十五條

商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得  
商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十六條

商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百七十七條

民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セズ

第二百七十八條

商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス



指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

第二百七十九條

指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ

其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第二百八十條

第二百七十八條第二項及ヒ前條ノ規定

ハ民法第四百七十一條ニ掲ケタル債權ニ之ヲ準用ス

第二百八十一條

金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指

圖證券又ハ無記名證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十二條

第四百四十一條第四百五十七條第四

百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖債權ニ之ヲ準用ス

第二百八十三條

法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定

ルトキハ其取引時間内ニ限リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ



其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條

商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者ノ所有物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十五條

商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニヨリテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第二章 買 買

第二百八十六條

商人間ノ買買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滯ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス損敗易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス



第二百八十七條

買賣ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ

ヨリ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非  
サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場  
合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ  
經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スル  
ニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第二百八十八條

商人間ノ買賣ニ於テ買主カ其目的物

ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク之ヲ検査シ若シ之ニ瑕  
疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタル  
トキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非サレ  
ハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額

第二百八十九條

前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除

若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス買賣ノ目的  
物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合  
ニ於テ買主カ六ヶ月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ  
前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用  
セス

ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的  
物ヲ保還又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ滅失  
又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競  
賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滯



ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス  
前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所若シ營業所ナ  
キトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適  
用セス

**第二百九十條** 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタ  
ル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準  
用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於  
テ其超過額ニ付キ亦同シ

第四編 手形

第一章 總則

**第四百三十四條** 本法ニ於テ手形トハ爲替手形約束手形  
及ヒ小切手ヲ謂フ

**第四百三十五條** 手形ニ署名シタルモノハ其手形ノ文  
言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

**第四百三十六條** 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記  
載セヌシテ手形ニ署名シタルトキハ本人ハ手形上ノ  
責任ヲ負フコトナシ

**第四百三十七條** 偽造又ハ變造シタル手形ニ署名シタ



ル者ハ其偽造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタルモノハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

偽造者變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百三十八條

無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ

取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第四百三十九條

本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記

載スルモ手形上ノ效力ヲ生セズ

第四百四十條

手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ

以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得ヌ但直接ニ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラヌ

第四百四十一條

何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ヲ

クシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヌ

第四百四十二條

手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニ

スル呈示拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其



營業所若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絶證書ヲ作ルヘキ公証人又ハ執達吏ハ其他ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若シハ公署ニ於テ拒絶證書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條

引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絶証書作成ノ日ヨリ六ヶ月裏書人

ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百四十四條

手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形

第一節 振出

第四百四十五條

爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字



- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名又ハ商號
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 一定ノ満期日
- 八 支拂地

第四百四十六條

爲替手形ノ生シタル部分ニ記載シタ

ル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ  
主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第四百四十七條

振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト

定ムルコトヲ得

第四百四十八條

振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケ

ル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條

爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノ

ニ限リ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百五十條

満期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコ

トヲ要ス

- 一 確定セル日
- 二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日
- 三 一覽ノ日
- 四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日



第四百五十一條

振出人カ爲替手形ニ滿期日ヲ記載セ  
カリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ滿期日ト  
ス

第四百五十二條

振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セ  
カリシトキハ其爲替手形ニ記載シタル支拂人ノ住所  
地ヲ以テ其支拂地トス

第四百五十三條

支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナルト  
キハ他人ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載ス  
ルコトヲ得

第四百五十四條

振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケ  
ル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二節 裏書

第四百五十五條

爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ  
裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ  
禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十六條

振出人引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依  
リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ  
之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條

裏書ハ爲替手形其謄本又ハ補箋ニ被  
裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏  
書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス  
裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此



場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

**第四百五十八條** 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

**第四百五十九條** 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

**第四百六十條** 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

**第四百六十一條** 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコト

ヲ得

**第四百六十二條** 支拂拒絕証書作成ノ期間經過ノ後所

持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

**第四百六十三條** 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ質入ヲ爲シ又ハ其取立ノ委任ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

**第四百六十四條** 裏書ノル爲替手形ノ所持人ハ其裏書



第四百六十八條

引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百六十九條

支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百七十條

支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受タル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條

引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條

支拂地方カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合



カ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

第三節 引受

第四百六十五條

所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ケヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條

一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕証書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シ

タルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條

所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サヌ又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セカリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絕証書ヲ作ラシムルコトヲ要ス所持人カ拒絕証書ヲ作ラシメサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ  
引受人カ引受ノ日附ヲ記載セカリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕証書ヲ作ラシメカリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス



第四百六十八條

引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シヨルモノト看做ス

第四百六十九條

支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百七十條

支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受タル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條

引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條

支拂地方カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス費ニ任ス  
前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合



ニ於テ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百七十三條

支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四節 擔保ノ請求

第四百七十四條

支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲サカリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求

スルコトヲ得

第四百七十五條

爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシメ且擔保ニ供セシメント欲スルモノニ對シ遲滯ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百七十六條

裏書人カ後者ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保ヲ供セシメント欲スルモノニ對シ遲滯ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス



第四百七十七條

前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク引受拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

第四百七十八條

前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

所持人又ハ裏書人カ第四百七十五條又ハ第四百七十六條第二項ノ通知ヲ發シタルトキハ其通知ヲ受ケタル者ノ後者全員ノ爲メニシタルモノト看做ス

第四百七十九條

左ノ場合ニ於テハ第四百七十九條ノ

規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受ケアリタルトキ

二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ

三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタルモノ又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ

四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ

五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ満期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ



第四百八十條

引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ケヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ作ラシメ且遲滯ナク豫備支拂人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條

左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル

金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

三 第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節 支拂

第四百八十二條

一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ヲ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シ



タルコトヲ証明セサルトキハ其前者ニ對ス手形上ノ  
權利ヲ失フ

**第四百八十三條** 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之  
ヲ爲スコトヲ要セス

支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受  
ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

**第四百八十四條** 手形金額ノ全部ニ付キ引受ケアリタ  
ルトキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得  
ス

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形  
ニ記載シ且其曆本ヲ作リ署名ノ後之ヲ交付スルコト

ヲ要ス

**第四百八十五條** 爲替手形ノ支拂ノ請求ヲキトキハ引  
受人ハ支拂拒絶証書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ  
供託シテ其債務ヲ免ルコトヲ得

第六節 償還ノ請求

**第四百八十六條** 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サザリ  
シトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲ス  
コトヲ得

**第四百八十七條** 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲ス  
ルトキハ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示  
シ若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ滿期日又ハ其後二



日内ニ支拂拒絶証書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメン  
ト欲スル者ニ對シ拒絶証書作成ノ翌日マテニ償還請  
求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス  
所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其  
前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十八條

裏書人カ其後者ヨリ前條第一項ノ通  
知ヲ受ケタルトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲  
スヨトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ償還ヲ爲サシメント欲ス  
ル者ニ對シ自己カ通知ヲ受ケタル翌日マテニ償還請  
求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十九條

爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絶証書ヲ  
作ラシメサリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ  
對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ  
所持人カ支拂拒絶証書ヲ作ラシメタルトキハ其作成  
ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ル  
ルコトヲ得ス

第四百九十條

支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合  
ニ於テ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ  
支拂擔當者ニ若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキ  
トキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其  
支拂ヲ求ムルコトヲ要ス



此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササ  
リシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第  
一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絶証書ヲ作ラシメ且償還請  
求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人  
カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ  
對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ

償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

- 一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利  
息

二 拒絶証書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地カ支拂  
地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受  
クル者ノ住所ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ  
相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナ  
キトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ最モ近キ  
地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

第四百九十二條

償還ノ請求ヲ受ケル裏書人ハ左ノ  
金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

- 一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息
- 二 其支出シタル費用



前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十三條

爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百九十四條

所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依テ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス

所持人カ振出ス爲替手形ニテ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其住所地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス

第四百九十五條

償還ハ爲替手形支拂拒絶証書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス  
償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百九十六條

第四百七十八條第二項ノ規定ハ償還ノ請求ニ之ヲ準用ス

第七節 保証

第四百九十七條

爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保証スル爲メ爲替手形其謄本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務カ無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責



任ヲ負フ

第四百九十八條

何人ノ爲メニ保証ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保証ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百九十九條

保証人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條

爲替手形ノ所持人カ引受ケ拒絕証書ヲ作

ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス

豫備支拂人カ引受ケテ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受ケ拒絕証書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百一條

爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得

第五百二條

參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲ引受ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三條

參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加



引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス  
參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキ  
ハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做  
ス

第五百四條

所持人ハ引受拒絶証書ニ參加引受アリタ  
ル旨ヲ記載セシメ且其証書作成ノ費用ノ支拂ト引換  
ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス  
參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絶証書ヲ被參加人ニ  
送付スルコトヲ要ス

第五百五條

參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ  
爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラ

サリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持  
人カ満期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替  
手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ  
其義務ヲ免ル

第五百六條

爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ  
參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

第五百七條

被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求ス  
ルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十五條乃至第四  
百七十九條ノ規定ヲ準用ス

第二款

參加支拂

第五百八條

爲替手形ノ所持人カ支拂拒絶証書ヲ作ラ



シメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ引受参加人アルトキハ所持人ハ滿期日又ハ其後二日內ニ参加引受人ニ若シ参加引受人ナキトキ又ハ参加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

参加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被参加人及ヒ其後者

ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

**第五百九條** 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ参加引受人ニ非サル者ノ参加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被参加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

**第五百十條** 参加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效カヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

**第五百十一條** 豫備支拂人又ハ参加引受人ニ非サル参加支拂人カ被参加人ヲ示ササリシトキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス



第五百十二條

所持人ハ支拂拒絕証書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシム且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絕証書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百十三條

參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス

第九節 拒絕証書

第五百十四條

拒絕証書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公証人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條

拒絕証書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公証人

又ハ執達吏之ニ署名スルコトヲ要ス

一爲替手形其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項

二拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號

三拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セザリシコト又ハ拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシ理由

四前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地

及ヒ年月日

五拒絕者ノ營業所住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シタルコト

六法定ノ場所外ニ於テ拒絕証書ヲ作ルトキハ拒絕者



力之ヲ承諾シタルコト

七參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種數及ヒ

參加人茲ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

第五百十六條

數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキ

トキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ

以テ足ル

第五百十七條

公証人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作リタ

ルトキハ其帳簿ニ其證書ノ全文ヲ記載スルコトヲ要

ス

拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其謄本ノ

交付ヲ請求スルコトヲ得此謄本ハ原本ト同ノ效力ヲ

有ス

第十節

爲替手形ノ複本及ヒ謄本

第五百十八條

爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其

爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人

カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之

ヲ請求スルコトヲ要ス

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人

ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十九條

爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示

ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力

ヲ有ス



第五百二十條

爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ

其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失

フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス

二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル

者又ハ數通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ

時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ

免ル、コトヲ得ス

第五百二十一條

爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求

ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送

付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲

第五百二十二條

爲替手形ノ所持人ハ其謄本ヲ作ルコ

トヲ得

爲替手形ノ謄本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項

ト原本ニ記載シタル事項トヲ區別スルコトヲ要ス

第五百二十三條

所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲



其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其謄本ヲ作リタル  
トキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス前  
項ノ記載アル謄本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ  
對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得

**第五百二十四條** 引受ケテ求ムル爲メニ送付シタル爲  
替手形ヲ受取リタル者力之ヲ返還セサル場合ニ於テ  
其謄本ノ所持人カ拒絕證書ニ依リテ其事實ヲ証明ス  
ルトキハ謄本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲  
シ又謄本ニ記載シタル滿期日カ到來シタル後ハ償還  
ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三章 約束手形

**第五百二十五條** 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出  
人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 受取人ノ氏名又ハ商號
- 四 單純ナル支拂ノ約束
- 五 振出ノ年月日
- 六 一定ノ滿期日
- 七 振出地

**第五百二十六條** 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セ  
サリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス



第五百二十七條

一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕証書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ証明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百二十八條

所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕証書ヲ作ラシムルヲ要ス此場合

ニ於テハ其拒絕証書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕証書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕証書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第五百二十九條

第四百四十六條第四百四十九條乃至第四百五十一條第四百五十三條乃至第四百五十七條第四百五十九條乃至第四百六十四條第四百七十一條第四百八十條乃至第四百九十九條第五百八條乃至第